

第2回安曇野市水道事業運営審議会

- 1 審議会名 平成22年度 第2回水道事業運営審議会
- 2 日 時 平成22年10月28日 午後3時から午後3時50分まで
- 3 会 場 安曇野市豊科総合支所 第2会議室
- 4 出席者 矢ヶ崎委員、務委員、等々力委員、市川委員、藤原委員、磯野委員、
窪田委員、市川委員、加々美委員
- 5 市側出席者 古旗部長、中野課長、古幡課長、丸山係長、奥村係長
- 6 公開・非公開の別 公 開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成22年11月2日

協 議 事 項 等

(開会) 午後3時

- ・開会 (中野課長)
- ・あいさつ (古旗部長)
- ・委嘱書交付
- ・自己紹介
- ・会長副会長選出
会長に堀金の矢ヶ崎委員、副会長に三郷の務委員に決定。
- ・あいさつ (矢ヶ崎会長、務副会長)

議事① 安曇野市水道事業の経過と課題について

(議事①資料に基づき事務局で説明)

会 長

何か質問等ありますでしょうか。

委 員

最終的に事業を統一する時期というのは資料にでておりますが、例えば事業がそれぞれ違います、統一するまではそれぞれの事業に負担をさせて、修繕等もそれぞれの事業が対応してやっていくということでしょうか。

事務局

事業認可の統一と水道料金の統一があります。事業認可というのは、旧町村時代に水源からどのように配水して給水区域がどのくらいかというものを認可として取得しています。それを、5町村が持ち寄ったもの、これはまだ統一されていません。これは、安曇野市一本に統一しなければならないのですが、それには一つの課題として、三郷の水源をどうするか決めないと申請できません。黒沢川からの取水をやめて地下水にするということは決まっておりますが、三郷に井戸を掘ってすべてを賄うのか、或いは豊科の方から送水をするのか、研究しているところです。それを早急にまとめたところで、安曇野市の事業認可で一本化する運びとなっております。事業認可が統一されないと、地域を越えての水のやり取りが認可として取得していないためできません。

修繕については、安曇野市の水道事業で行っているの、地区は関係ありません。一番主

なものは、目の前に水道管があっても、そこから区域が違えば水を供給することができないということです。

委員

料金については改定をして増収になった場合は、市の全般的な運用にされるという考えでよろしいのでしょうか。

事務局

先ほど前段にお話ししたのが、認可の関係で、料金の方は合併した時点で平均的なところに、調整できなかったわけです。理由は、豊科は5町村の中で一番料金が安く、穂高は明科に次いで高く、経営状況は豊科は黒字でした、穂高は赤字に近い状況だったため、豊科は利益があるのに料金は上げなければならない、逆に穂高は赤字に近い状態で料金も高いのに値下げをしなければいけない、その矛盾により話がまとまらなかったわけです。そのため、合併した時に穂高は赤字に近い状況でしたが、とりあえず黒字に近づけようということで穂高の値上げを実施しました。また、豊科はエプソンが液晶の関係で水を使うということで、高家に設備投資をしています。その設備投資額の約半分は、エプソンから負担をしてもらいましたが、使用水量は施設を作ったときにピークで、年々減って最後には液晶部門の撤退ということになりました。それまで豊科の使用水量の約20%がエプソンで使っていたということで、そのため豊科は料金が安かったという経過があります。その2割分がなくなってしまうため、一挙に豊科も赤字になってしまうということで、穂高に次いで値上げを実施しました。

後は、三郷の水源はこれからお金がかかるということです。今は三郷が一番料金が安いですが、これからお金がかかるということを考慮すると、やはり上げざるを得ないということです。

最終的に審議会の中で、豊科の水道料金に合わせたいということで進んでおります。この秋に基本料金の統一をさせていただいたということで、あとは超過料金をどのようにするのかということが残されています。

予算や決算については市の中では一つですが、各事業の状況は議会へ報告をしています。事業認可と料金を早く統一して、市1本でお金を運用できるような形に調整をしているということで、ご理解をいただきたいと思います。

会長

他に質問等ありましたらお願いします。

委員

黒沢川とかの問題もありますので、各地域の水源地を視察したいのですが、委員としても認識しておきたい。

会長

今話の出ました、三郷水源の現状は、どのようになっていますでしょうか。

事務局

前年度に電気探査を実施して調査をしております。その結果に基づいて井戸の試掘を実施しております。現在試掘をした場所は1本ということで、三郷のジャスコの西北の辺りで、270mの深度です。揚水試験は現在豊水期における試験を行っており、近々結果が出てまいります。また2月が渇水期ということで、その時期に揚水試験を行って、最終的に揚水量の把握をしていきます。これによってこの井戸が使えるか使えないか、またその水量によって不足する分をどうするのか、三郷の井戸だけで賄うのか、或いは豊科のほうから送水するのか建設コストや維持管理のコストから検討をしていきます。これが決まらないと認可の方も決まらないので、平成23年度には方向性を決定したいと考えています。

現在黒沢川からは日量4,800トンを取水していますが、これに替わる水源として井戸から取水し、将来的には5,000トンが必要となりますので、今試掘している井戸から取水できる量と不足する分をどうするか、建設コストから勘案して検討します。

事務局

先ほどの、委員さんからでました、水源地視察の件ですが、三郷の水源の関係とか明科の水道管も漏水しているところが多いため、現状を把握してもらったりするために計画は立てたいと思っておりますが、これから寒い時期になりますし、三郷の水源も市として決定していないものですから、ある程度方向性が出てきたところで、来春に視察していただいたほうが良いと思いますが、いかがでしょうか。

会長

時期については事務局にお任せということでお願いします。

副会長

三郷の試掘井戸については昨日撤退したようですが。

事務局

最終的に72時間連続で、水を汲み上げてどのくらい水量が取れるかという調査が終了しまして、これから結果が出てまいります。また来年の2月に同じ調査を実施します。現在試掘井戸として現場が残っています。

副会長

試掘井戸の現場の囲いを、はずしていましたが、危険ではありませんか。

事務局

危険ではありません。直径40センチくらいの穴はありますが、それは蓋をかぶせてあります。囲ってあったのは、周囲への防音対策です。

会長挨拶の後、閉会。

会議終了 午後3時50分